

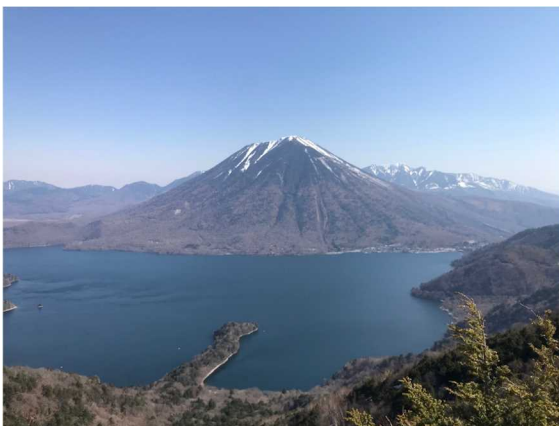
1 初めに

日光森林管理署の事務所は、日光市内に位置し、日光市、宇都宮市、足利市、佐野市、鹿沼市及び益子町に所在する約8万5千haの国有林を管理しています。このうち、約4万9千haは、日光国立公園に指定されています。また、日光市内には、1999年に世界文化遺産に登録された日光の社寺（Shrines and Temples of Nikko）があり、二社一寺（二荒山神社（正式には二荒山神社ですが宇都宮二荒山神社と分けるために以下日光二荒山神社と呼びます。）、東照宮、輪王寺）及びこれらの建造物群を取り巻く遺跡（文化的景観）からなり、その中には国宝9棟、重要文化財94棟の103棟の建造物群が含まれます。

ところで、コロナ禍で昨年春から神事等行事はありませんでしたが、その一社である日光二荒山神社の紀元祭が2月11日にあり署にも案内がきました。

2 日光二荒山神社

日光二荒山神社のご祭神は、二荒山大神（ふたらやまのおおかみ）とされ日光連山を構成する男体山（2,486m）、女峰山（2,483m）、太郎山（2,268m）で古くから信仰の対象になっていました。



中禅寺湖と男体山



男体山山頂のご神体

男体山、女峰山、太郎山には、それぞれ大己貴命（おおなむちのみこと）、田心姫命（たごりひめのみこと）、味鋤高彦根命（あじすきたかひこねのみこと）の親子3神が祀られています。男体山の山頂は日光二荒山神社の所有地内に、女峰山、太郎山の山頂は国有林の中にあり、祠は貸付しています。

紀元祭は、皇室の始まりを祝う行事で、古事記や日本書紀で初代天皇とされる神武天皇の即位日2月11日の国民の祝日に行われます。

神事は本殿で行われ、本殿につながる拝殿に我々は座りました。コロナ禍のため戸が開け放たれ、外の風が拝殿にも流れ込んでいたので、大型の石油ストーブが2機ありましたがぶるぶる震えながらの神事でした。

神事は、1時間弱でしたが、巫女の舞の奉納などもあり、興味深いものでした。

最後に宮司のあいさつがあり、例年であれば紀元の歌を全員で歌うこと、紀元祭は2681年続く行事であること、また2600年も続いた王室は世界でも日本しかないことなどを話されてました。直会も本年はありませんでした。



日光二荒山神社の鳥居



拝殿



拝殿からみた本殿

昨年12月にユネスコの無形文化遺産に「伝統建築工匠の技：木造建築物を受け継ぐための伝統技術」が登録されました。その中には建築物彩色・建造物漆塗で（公財）日光社寺文化財保存会が入っています。国有林では木の文化を支える森として古事の森や檜皮の森を設定しています。そこで、日光署でもそのような森が設定できないかと考え、二社一寺から木材の提供を求められたことはないか関係者に聞いてまわりましたが、保存会から木材の提供を求められた地元の関係者はいませんでした。結論としては、二社一寺は文化財であり、修繕にも前のものと同程度の資材（例えば木曽ヒノキなど）が求められ、日光のスギ、ヒノキでは太刀打ちできないとのことでした。

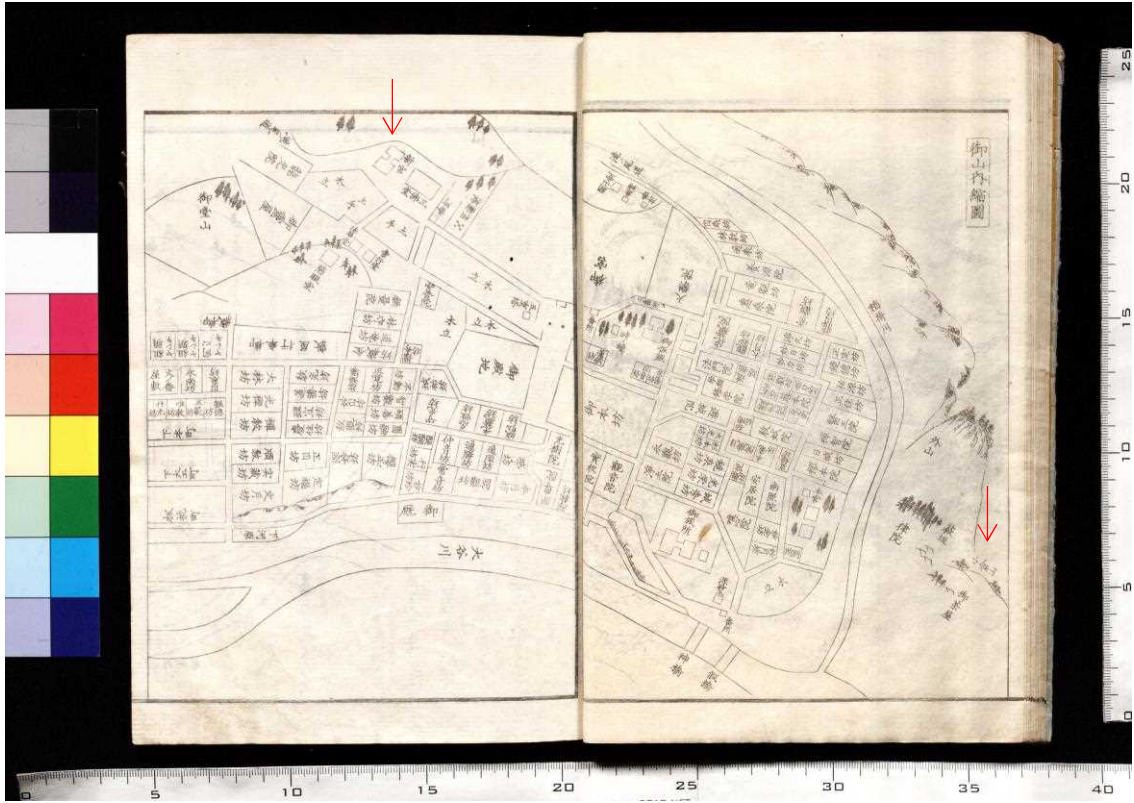
1000年以上の歴史をもつといわれる日光二荒山神社ですが、本殿は2代将軍徳川秀忠により造営されたもので1619年に建てられ、1645年の移築に合わせて拝殿も建てられています。本殿には、各部に華やかな彩色、塗装、彫刻など創建当時の建築様式が残っています。

日光二荒山神社は、東照宮と並ぶパワースポットとしても人気があり、特に縁結びのパワースポットとして有名です。貴方もハートマークのかわいい絵馬に願い事を書いてみませんか。

2 小倉山

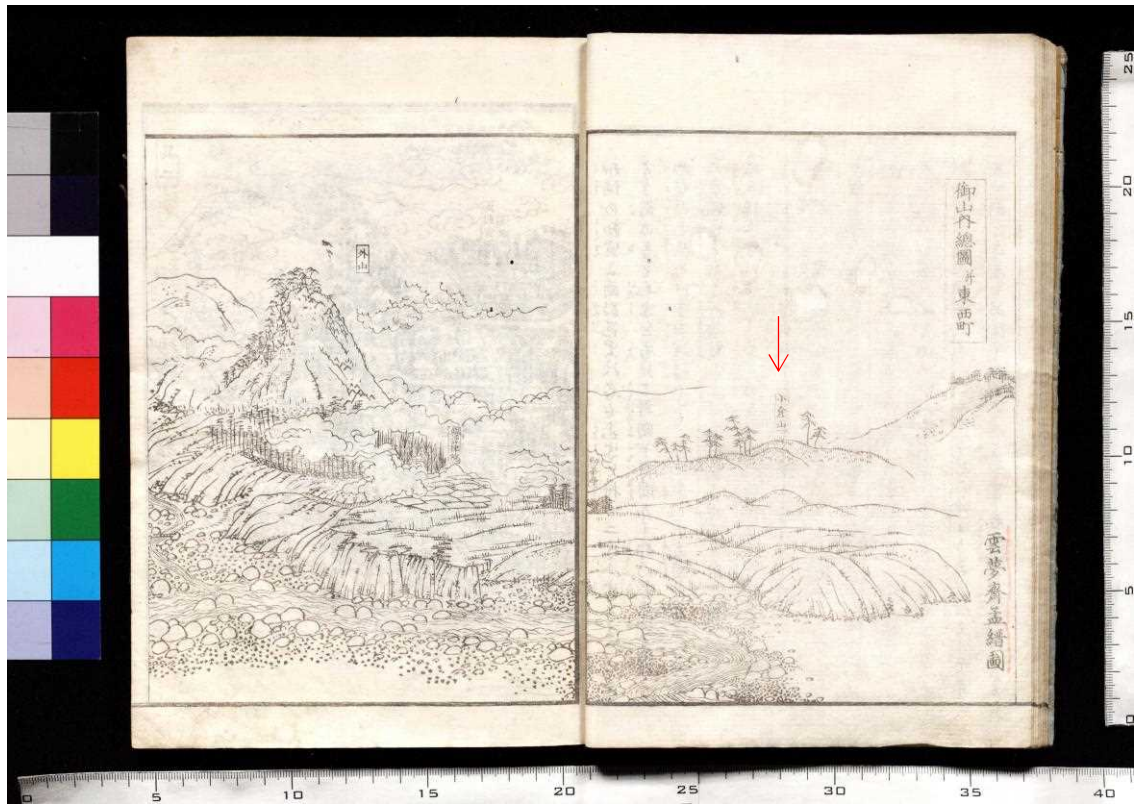
江戸時代後期の古書日光山志に書かれた御山内縮図を見てみると、左ページの上に新宮と書かれた日光二荒山神社があり、右ページ右下に小さく小倉山と書かれています。

小倉山は、国有林の飛び地で、奥日光と合わせて、御料林が国有林に編入されたものです。



御山内縮図

また、日光山志の御山内総図東西町の右ページ中央に小倉山が描かれています。マツが10本ほど描かれ、他は笹地のように描かれています。



御山内総図東西町

マツ山だったということは、自然の遷移に任せておけば、広葉樹林になっていたのかもしれませんが。現在は、編入後にスギ、ヒノキが植えられ、針葉樹が大勢を占めています。

また、一部は日光霧降スケートセンターが建てられ、国際規格の本格的スケートリンクに利用されています。スケートセンターの駐車場は、春秋の行楽シーズンには、二社一寺の臨時駐車場として利用されています。小倉山国有林は、野鳥の森として日本野鳥の会栃木と協定を結んでいます。



現在の小倉山（スケートリンクの背景林）

私の構想としては、市街地に近い小倉山を、春には桜、秋には紅葉がみられるサクラとカエデ、モミジの森に変えたいと考えています。奥日光の紅葉は有名ですが、大規模にサクラや紅葉がみられるところは日光市街にはありません。良い観光スポットになるのではないかと思います。この構想のためには、野鳥の会を始め関係者、日光市の理解と、また植栽を応援していただける団体の協力が必要と考えています。

本構想を実現するため、令和3年度には次期計画編成に向け、関係者と協議をしていきたいと考えています。また、実現には、恐らく30年など長期間を要し、苗木や手入れの経費など予算確保も必要になります。

本局関係課のご協力もよろしくお願いいたします。

3 おわりに

二社一寺に木材で協力することはできませんでしたが、国有林が景観や市民の憩いの場として、協力できることはないか、今後も検討していきたいと思っております。